

標 題 : The chronic intake of a Mediterranean diet enriched in virgin olive oil, decreases nuclear transcription factor  $\kappa$ B activation in peripheral blood mononuclear cells from healthy men

バージンオリーブ油で強化した地中海食事の長期間摂取は、健康な男性由来の末梢血単核細胞で核内転写因子  $\kappa$ B を減少させる

著 者 : P. Perez-Martinez, et al. (スペイン Hospital Universitario Reina Sofía 脂質・動脈硬化研究部)

掲 載 誌 : Atherosclerosis 194 (2007) e141-146

要 旨 :

目 的 : 核内転写因子  $\kappa$ B (NF- $\kappa$ B)は炎症反応で重要な役割を演じ、食事脂肪によって調節できる。

NF- $\kappa$ B の活性化に対する脂肪組成の異なる3種類の食事の影響を、我々は末梢血単核細胞で調べた。

方 法 : 16人の健康な男性が3種類の4週間の食事に、ランダムクロスオーバー法で従った: 飽和脂肪が豊富な西洋の食事[飽和脂肪22%、1価不飽和脂肪12%および $\alpha$ -リノレン酸0.4%]、地中海食事[飽和脂肪<10%、1価不飽和脂肪24%および $\alpha$ -リノレン酸0.4%]、および $\alpha$ -リノレン酸を強化した低脂肪食事[飽和脂肪<10%、1価不飽和脂肪12%および $\alpha$ -リノレン酸2%]。

単核細胞中のNF- $\kappa$ B(電気泳動移動度シフトアッセイ)および可溶性の血管細胞接着分子1(VCAM-1)の血漿濃度(ELISA)を、各食事後に測定した。

結 果 : 西洋の食事はNF- $\kappa$ Bを地中海食事と比較して2.7倍に増加させ( $p=0.038$ )、 $\alpha$ -リノレン酸食事と比較して1.79倍に増加させた( $p=0.07$ )。

後者2つの間に差はなかった。

さらに、血漿VCAM-1の増加が西洋の食事で観察された( $p<0.05$ )。

結 論 : 地中海食事は西洋の食事と比較して単核細胞中でNF- $\kappa$ Bの活性化を弱めたので、その心臓保護特性を裏付けている。

n-3系強化食事の影響は中間であった。

著作権 2006年 エルゼビア アイルランド社、著作権所有。

キーワード : 食 事、血液細胞、地中海食事、核内転写因子NF- $\kappa$ B、オリーブ油、VCAM-1